

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 ふきのとう1丁目)

事業所番号	O671100444		
法人名	株式会社ケアネット徳洲会		
事業所名	グループホームふきのとう		
所在地	山形県新庄市大字鳥越字駒場4519-2		
自己評価作成日	令和 2年 11月 10日	開設年月日	平成18年 3月 29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人一人に寄り添い、認知症になっても出来る事、出来ない事を見極めて、その人らしさを出しながら生活できるように関わっている。施設ではなく、住まいとして心地よく過ごせるように、昔から地域に根付いた食生活や行事などを取り入れ、温かい環境作りにも努めている。また、新型コロナウイルス禍のなかでも、楽しみとなる行事を行い、一瞬一瞬が笑顔で過ごせるよう企画している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市桜町四丁目3番10号		
訪問調査日	令和2年 12月 3日	評価結果決定日	令和2年 12月 16日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は隣接している徳洲会病院や訪問看護ステーションと連携し、訪問診療や訪問看護を受けながら利用者が安心して医療を受けられる環境となっている。法人が職員アンケートを実施し、課題を抽出し、解決策を検討しながら働きやすい職場づくりに取り組んでおり、職員が互いに協力し助け合う事業所となっている。話し合いの中から郷土料理作りなど、コロナ禍でも様々なアイデアを出し合い、利用者が穏やかに過ごすことができるよう工夫し理念の実現に向けた取り組みを行っている。職員研修を毎月開催し、全職員が受講できるよう工夫をしたり、新人職員のOJTなど職員の質の向上と人材育成に努めている。近隣世帯への広報誌配布や消防団の防災訓練参加など地域との交流も進められている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意図を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
51	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの玄関に理念を掲げ、毎朝の朝礼時に唱和して意識することで、1日のケアに活かしている。	法人理念をネームプレートの裏に印刷し常に意識できるようにしている。また事業所理念は目につきやすいところに掲示し、毎朝唱和しながら「その人らしい家庭的で穏やかな日々を」過ごすことができるようにケアの実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	今年はコロナ禍で、運営推進会議は文書開催に留まっている。又、地域の行事や地域を招いての行事も全て中止している。しかし、その中でも敷地内や近隣の散歩は日常的に行われ、地域の方とあいさつを交わしたりできている。避難訓練では地域の消防団に参加して頂けた。	例年は事業所の祭りなどのイベントに参加していただいたり、保育園児とのふれあい、中学生の職場体験の受け入れ等多彩な交流を行っている。今年度はコロナ禍ではあるが近隣世帯への広報誌配布や離設者の見守り依頼文の近隣地区への回覧、避難訓練への消防団の参加など、地域と事業所のつながりを深めている。前回目標達成計画に掲げた様々な取り組みは行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年はコロナ禍で、鳥越全軒までの配布はできなかったが、全軒に年4回の広報誌を回覧し、ふきのとうの様子を発信できた。又、離設の危険性のある方の見守りもご協力を頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年はコロナ禍で、運営推進会議の開催はできなかったが、2か月に1回ふきのとうの近況報告を文書発送し返信用意見用紙を同封して意見を反映できるように努めている。	新庄市他最上管内市町村職員や鳥越地区内自治会長、家族代表がメンバーとなり、2か月ごとに開催している。会議では事業所の活動報告、入居者状況、研修状況など報告し意見をいただいている。また年1回は避難訓練に合わせて開催している。今年度は感染予防のため文書を郵送し、返信用紙により意見をいただいている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2か月に一回ふきのとうの近況報告をお伝えできている。又、困った事や判断に迷った際などは、電話にて随時相談しており、その都度ご協力を頂いている。	運営推進会議を通して市担当者に運営状況を報告し、情報交換を行っている。困難事例などについてはその都度相談し、また市事業の「認知症カフェ」「認知症相談」への協力をするなど協力体制が築かれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	身体拘束はしないという事を念頭に、年に2回の施設内勉強会にて知識を深めている。また、夜間のみ施錠し安全を確保するためのやむを得ない場合の施錠以外は基本開放して、見守りのもと外に出れる環境を作っている。現在1丁目では身体拘束の対象者はいないが、1名離設の危険性が高い方がおり、GPS機能付きシューズや、地域へ見守りのお願いをするなどして、万が一に備え安全確保に努めている。	身体拘束防止マニュアルを整備し、年2回の研修会を実施している。また、毎月の会議では身体拘束適正化委員会を兼ねて話し合いが行われ、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。離設の危険性が高い利用者にはGPS機能付きシューズでの所在確認や近隣住民へ見守り依頼を行うなど、利用者の安全を確保するよう努力している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に2回の身体拘束についてと、高齢者虐待について施設内勉強会を実施しており、常に意識してケアできるように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内勉強会にて学び機会を作っている。今年度、1件、成年後見制度について、行政に相談する事例があったが活用までには至っていない。今後も必要性があれば活用できるように支援したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の説明は勿論のこと、契約前の段階でも不安が軽減できるように説明に努めている。その他、随時質問等にお応えし、安心して頂けるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。又、意見を言いやすいように、面会や電話の際は、こちらから何かないか問いかけるようにしている。希望に応じてメールにてやりとりし、時間を気にせず連絡を頂ける環境を作っている。	毎年お客様アンケートを実施し、集計結果を家族に周知するとともにご意見を日々のケアに活かしている。毎月のお便りでは写真で利用者の状況をお伝えし、健康面や活動の状況を報告し家族の安心に繋げている。面会は制限した時期もあったが、状況に応じて短時間の面会やオンラインによる面会を可能にするなどの工夫を行っている。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に1回、会社のアンケートを実施し、問題解決や意見の反映に努めている。又、月に1回の全体会議での意見交換や個々の面談など、日ごろから相談できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1回、会社のアンケートを実施し、問題解決や意見の反映に努めている。その都度、必要に応じて就業規定等の改定がなされている。又、家庭の事情や体調等に応じてシフト調整し、働きやすい環境作りに努めている。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年はコロナ禍で、外部研修に行く機会は残念ながら作れていない。施設内研修会は毎月実施しており、知識向上と見直しにつながっている。又、本社として、リモート研修を開催するなど、今できる方法を探って実施できている。	教育委員会が年間計画を立て、身体拘束廃止、接遇、感染症などの研修会を毎月実施している。同じ内容を月3回実施して全職員が参加できるよう工夫している。法人による職員アンケートが年1回行われ、課題と対策をまとめながら、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。		
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	例年であれば、交換研修やオレンジカフェ、最上地区GH連絡協議会などに参加し交流できているが、今年はコロナ禍で交流できていない。文書を通して、最上地区のグループホームの情報交換はできている。	最上管内のGH連絡協議会及び県GH連絡協議会に加入し、例年は研修会に参加し情報交換や交流を行っている。今年度は書面での情報交換を行いながら連携強化に努めている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談の段階から、本人の様子を観察したり話を聞いたりし、入居後の環境の変化にも対応できるように努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談の段階から、家族の不安や要望をお聞きし、安心して頂ける説明に努めている。また、家族と職員が共に本人を支えていけるよう、関係作りに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に得た情報をもとにケアプランを作成している。その方の生活歴等も考慮してプランに盛り込み、支援している。必要に応じて、他のサービス提供も個々に検討している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	主体者は入居者である事を忘れず、出来る事を見極め、過剰な介護にならず、不足する事もないように支援している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今まで通りの関係を継続できる環境を作ったり、つながりの持てる方法を探りながら、家族と職員が共に支えていけるように支援している。今年はコロナ禍で面会の制限もあり、電話で話せる環境を作ったり、オンライン面会できるようにしたり工夫している。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力も得ながら、出来る範囲で支援している。家に帰ってみたり、行きつけの美容室に行ったり、会いたい人に会いに行ったりできるように努めている。又、地域に根差した昔からの食生活や行事等も取り入れている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活のなかで、1人1人の性格や相性を把握し、それぞれの認知症状を受け入れながら、良好な関係で過ごせるように、職員が働きかけている。皆で楽しみを共有できる時間、お1人でゆっくり過ごせる時間、どちらも大切にしている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでも来て頂けるような声かけ、見送りをやっている。退去後2か月はお手紙を送っており、何かあれば相談しやすいように努めている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の表情や仕草、何気ない一言から、希望などを探っている。可能な限り本人の希望に寄り添い、信頼関係が築けるように努めている。	フェイスシートや生活史などのアセスメントにより、利用者の生活歴、趣味、得意なことなどを把握するとともに日頃の会話から本人の思いや希望をくみ取りながら、その人らしい生活ができるようなケアの実践に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人から生活歴等をお聞きし、ふきのとうでの生活が、これまでの生活の延長になれるよう努めている。また、使い慣れた物や家具などを持ってきてもらったり、過ごしてきた環境に近づけられるようにしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタル測定にて健康状態を把握し、日ごとの生活の様子は個々のケース記録にて管理している。一人だけの情報とならないように、小さな気づきもケース記録に記載するよう努め、情報共有できるようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の担当者会議、その他日々の業務のなかでも気になった事を話し合っってプラン作成に繋げている。家族の要望も、その都度確認し、言いやすい関係作りに努めている。	毎月モニタリングを行い、センター方式を活用した「ケアプラン立ち上げシート」を用いて本人のできること、やりたいことやケアでの気づき、障害となっている環境の問題などをまとめながら、利用者本位のケアプランを作成している。見直しに当たっては家族の意見、要望も聞きながら6か月ごとにプラン作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った記録に努めている。小さな気づきも大切に、皆で情報共有できるよう記載している。		
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年はコロナ禍で外出できていないが、出張美容や理容、出張販売などを利用し、楽しみに繋げている。又、ホームとしてもシルバー人材を利用して環境整備してもらったり地域の資源を活用できている。		
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、希望する医療機関を確認したり、こちらから提案したりして、希望に沿った医療を受けられるようにしている。また、月に1回の訪問診療、週に1回の訪問看護があり、その都度相談できる体制になっている。	かかりつけ医の受診を原則にし、希望により法人の訪問診療も行っている。通院支援も行っているが、家族付き添いの場合は現状をメモで情報提供し、結果などの情報共有を行っている。週1回は訪問看護STからの訪問看護もあり、安心・安全な医療の確保がなされている。	
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回の訪問看護にて日頃の体調管理のサポートをもらっている。その他、何かあれば24時間相談できる体制になっている。また、敷地内に系列の有料老人ホームとデイサービスがあり、何かあれば看護師と連携できる体制になっている。		
31		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、随時相談員と連絡をとり、状況提供と状況の把握に努め、退院調整を行っている。また、可能な限り面会に出向くようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化した場合における指針について説明を行っており、その都度、状況に応じて希望の確認を行っている。また、年に1回、訪問看護と共に看取りについての指針の見直しを行い、方針を共有できている。	看取りに対する指針、重度化指針を入居時に家族に説明している。心身の状況の変化に応じて家族・訪問看護・医療機関と連絡を取り合いながら方針を確認し、本人らしい最期を送れるように支援している。看取りの研修会を行い、訪問看護師と連携しながら終末期の対応について協力体制を築いている。	
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1回は必須、目標年に2回以上を目指して勉強会を実施し、万が一に備えている。		
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	各種マニュアルの整備を行い、年に3回の避難訓練を実施している。1回は3施設合同で実施しており、地域の消防団の方からも参加して頂いている。その他、勉強会も実施している。	火災・水害など各種の災害マニュアルを整備し、年3回の火災訓練を行っている。年1回は地区消防団の参加、運営推進会議委員の見学を実施し、地域との連携を図っている。職員による学習会を実施し、日頃から危機管理の意識向上に努めている。前回目標達成計画に掲げた様々な取り組みは行われている。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護や接遇についての施設内勉強会を実施し、一人一人を尊重した声掛け対応に努めている。	プライバシー保護や接遇について、また倫理に関する研修会を実施し、一人ひとりを尊重した声掛け等に努めている。管理者は、業務優先ではなく利用者中心の生活を優先することに留意し、気になることがあれば注意しながら、人格を尊重した対応をするよう指導している。	
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	答えやすいような質問や雰囲気にも努めている。また、決定が難しい際は、選択できる工夫をし、自己決定できるようにしている。		
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者が主体である事を忘れず、職員都合の生活にならないように支援している。認知症の方々なので、自分で判断できない方には、ペースを作るお手伝いもしながら、心地よく生活できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔が保てるように、きれいな身だしなみができるように働きかけている。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備から食べる、片付けまでのすべての過程で入居者と共にできており、それがやりがいに繋がっている。また、季節にあわせた食事も取り入れ、楽しみに繋がっている。	朝・夕は事業所で調理し、昼のみ配食サービスを利用している。調理全般において利用者とともにいき、役割を持つことで家庭的な食事になっている。笹巻や干し柿、納豆汁、芋煮会、鴨汁など郷土食、季節の行事食の楽しみや、月1回の寿司の日、出張ラーメン、おやつづくりなど様々な食の楽しみを提供している。		
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック表を活用し、その都度不足していないか確認している。状況に応じて小分けして提供したり、捕食を加えたりするなど、個々に合わせて対応している。また、トロミやミキサー食、粥や刻みなど、個々に応じた食事形態で提供している。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後に口腔ケアの支援を行っており、口腔内の清潔と、誤嚥性肺炎等の予防に努めている。			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンの把握に努め、さりげなく誘導したりして失禁せずにトイレで排泄できるよう働きかけている。また、少し前までオムツ使用者がいたが、日中は2人介助でトイレで排泄できるようにしたり、排便しやすいようにトイレに座らせたりと、積極的に支援できた。	排泄チェック表を用いて排泄パターンを把握し、適時の誘導を行いながら失禁せずにトイレで排泄することができるよう支援している。重度の方でも二人介助でトイレでの排泄を支援したり、おむつをできるだけ使わないで気持ちよく過ごせるよう支援している。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時に牛乳を提供したり、こまめに水分補給したり、適度な運動や体操を取り入れている。必要に応じてお薬を服用するなどして、便秘しないように努めている。			
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	ある程度の週間予定は決まっているが、その日の気分や体調、要望などにより臨機応変に対応している。その他、希望入浴の日も設けている。夜間入浴も1名～2名実施できている。入浴拒否の方には家族の協力をお願いして入浴したり、清拭や洗髪・足浴で対応中である。	身体状況や希望に合わせて、夜間入浴や日曜日の入浴、デイサービスの大浴場での入浴など、臨機応変な対応も行うなど、入浴が楽しめるよう工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の様子をみながら休息、入眠できるように声がけをしている。眠れない時は、リビングで一緒にすごしたりお茶を提供したりして無理強いする事なく、タイミングをみて支援している。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の薬の必要性と内容を理解し、安全に正しく服用できるように努めている。特に向精神薬などは、副作用についても気を付けて観察している。			
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の得意なことや好きなことを情報収集し、生活の中で楽しみややりがいにつながるよう取り入れている。			
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年はコロナ禍で、例年のように外出は出来なかったが、日常的に外にでる機会を設けて、散歩したり日光浴したり気分転換できるように努めた。また、小分けしてドライブしたり、対策をとりながら外出できるように努めた。	例年は季節の行事としてのドライブ等も行っている。今年度は、初詣、広い駐車場や近隣病院への散歩と買い物、プランターで花や野菜作りなど、できるだけ外に出る機会を作っている。少人数でのドライブで、やな茶屋や紅葉を楽しむ機会を設け、コロナ禍でも外出を楽しめるよう工夫している。		
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはホームで預かり管理しているが、自分で管理できる方、または手元にある事で安心する方には、高額でない金額を管理してもらい、買い物を楽しんでもらっている。			
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナ禍で会えない時間が多かったので、こちらから電話して話せるように支援している。また、タブレットを用意し、オンライン面会ができる環境を整え、利用して頂いている。			

自己 外部		項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の掃除を行い、綺麗な環境で生活できるように努めている。また、季節感のある花や装飾物を飾り、心地よく生活して頂けるように心がけている。外には、プランターに色とりどりの花を植えたり、野菜を植えて収穫したりと、日々の楽しみに繋がっている。	利用者でできる方と一緒に掃除をして清潔を保つとともに役割を持ってもらう機会としている。温度・湿度管理に努め、換気にも注意して感染予防に気を付けている。季節感のある花や作品を飾り、安心して心地良く過ごせるようなリビングとなっている。		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室やリビング、個々の居室、玄関のソファや外のベンチなど、それぞれが好みの場所で過ごせるように工夫している。	/	/	
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を持ってきてもらったり、家族との写真を持ってきもらったり、安心して暮らせる環境作りに努めている。	使い慣れたものや家族の写真などを飾ったりして、安心して過ごせる環境づくりに努めている。利用者とともに掃除し、換気も行いながら清潔な部屋となっている。		
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	整理整頓を心掛け、使いやすさと安全性に繋げている。	/	/	